

福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト (FSP) 合同報告会  
国際開発学会「原発震災から開発・発展を再考する」研究部会

# 栃木県北地域と「隠れた被災者」 —市民による除染と子どもの安全のための活動を事例として—

日時:2012年10月13日(土) 13:00~17:00

場所:宇都宮大学峰キャンパス 基盤教育B棟1223教室

\*参加費無料:どなたでもご参加いただけます

今回の報告会では、栃木県北地域に注目し、市民による自発的な除染活動や、放射線の影響から子どもを守る取り組みを続けている市民団体の活動、当プロジェクトが7月に実施した県北地域の乳幼児をもつ家族へのアンケート結果などを報告します。

## ■プログラム

### 13:00~ 第一部 栃木県北地域の現状報告

「砦の住民活動と除染の実際」

報告者:大笹貴靖(「NPO法人 那須希望の砦」事務局長)

「子どもを取り巻く放射能汚染問題と市民による防護活動」

報告者:手塚真子(「那須塩原放射能から子どもを守る会」代表)

瀧アケミ(同副代表)

「県北地域 震災を受けての乳幼児保護者アンケート」結果報告

報告者:清水奈名子(宇都宮大学国際学部准教授)

### 15:45~ 第二部 コメントとパネル・ディスカッション:「隠れた被災者」への支援とその課題

パネリスト:大笹貴靖、手塚真子、清水奈名子

コメンテーター:原口弥生(茨城大学准教授・FnnnP茨城拠点長・茨城大学有志の会メンバー)

高橋基樹(神戸大学教授・国際開発学会理事/前副会長)

司会:重田康博(宇都宮大学国際学部教授・FSP代表・国際開発学会研究部会代表)

主催:宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター  
福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト (FSP)  
国際開発学会「原発震災から開発・発展を再考する」研究部会  
一般社団法人 国立大学協会

## <問合せ>

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター内  
福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト  
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350  
TEL/FAX: 028-649-5228



## 第一部報告者の紹介

### ◎大笹 貴靖(おおささ たかのぶ)

NPO法人「那須希望の砦」の事務局長。2006年から那須町で小さな宿(コンドミニウム)を営むも、東日本大震災と福島原発事故で被災し閉館に追い込まれる。藤村靖之先生(現砦理事長)と共に2011年5月に“那須を希望の砦にしようプロジェクト”を立ち上げ、地域の放射線量の計測を中心とした活動をはじめ、放射能と戦う住民運動を推進してきた。那須町在住。

#### <NPO法人「那須希望の砦」>

2011年5月に、福島原発事故を契機に「那須地域の子どもたちを放射線被ばくから守ろう」と立ちあげられた住民運動。那須地域の放射線量をすべて計測し、那須地域の実態を浮き彫りにするとともに、行政と連動して那須町の全通学路の放射線汚染マップを作成し除染計画につなげる。また計測に加えて各種調査研究を基に、行政に対しての提言を行ったり、市民計測所をいち早く開設、食品計測を進め、安全な食生活を見守るなどの活動を展開している。2012年5月には、NPO法人「那須希望の砦」として再スタートを切り、しっかりと計測に基づく除染を本格的に進めるなど、今日に至っている。

### ◎手塚 真子(てづか まさこ)

「那須塩原 放射能から子どもを守る会」代表。  
那須塩原市在住。

### ◎瀧 アケミ(たき あけみ)

「那須塩原 放射能から子どもを守る会」副代表。  
那須塩原市在住。

#### <那須塩原 放射能から子どもを守る会>

福島第一原発事故に伴う放射能汚染から子どもたちを守るために、2011年6月に発足。主に栃木県北部地域を拠点にして、勉強会・座談会や行政との共働など、幅広く活動を展開。当地の放射能汚染が福島に広がるそれと近い線量であることが判明してきており、会発足直後から那須塩原市内全学校の表土除去を求め署名運動をし、約9000人分の署名を市に要望書と共に提出した。低線量被曝といわれる環境で暮らす子どもたちがどんなリスクを負うのか、どれが安全な数値か今議論するより、リスクの可能性を考えて予防的措置をとるのが先決と考えており、すぐには消えない放射性物質が環境に放たれた今、子どもたちの安全を大人が目を見張り確保していく社会にすべく、その環境づくりを目指している。

## 第二部コメンテーターの紹介

### ◎原口 弥生(はらぐち やよい)

茨城大学人文学部社会学科准教授。東京都立大学博士課程社会科学部研究科、博士(社会学)。専門は環境社会学。福島乳幼児妊産婦ニーズ対応PJ(FnnnP)茨城拠点長として茨城県内で避難生活を送る子ども世帯の支援を行うと同時に、「茨城大学有志の会」メンバーとして茨城県内の放射能問題にも取り組む。有志の会メンバー執筆による「米・小麦・牛乳の放射能汚染と学校給食～すべての子どもを守るための具体的提言」が『科学』2012年8月号に掲載。

### ◎高橋 基樹(たかはし もとき)

神戸大学大学院国際協力研究科教授。国際開発学会理事・前副会長。ジョーンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院修了、修士(国際関係論)。専門は、アフリカ経済・国際開発協力。著書に『開発と国家—アフリカ政治経済論序説—』、共編著に『開発を問い直す—転換する世界と日本の国際協力—』他がある。

### 福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト(FSP)

本プロジェクトは、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電事故後、放射能汚染による健康被害の不安を抱えて避難している乳幼児や妊産婦のニーズを把握し、それらのニーズに対応できる団体と連携した体制のもとサポートを行うことを目的として2011年4月に立ち上げられた。宇都宮大学は、福島県の隣県に位置し、福島出身の学生も抱える。それらの要因に加え、本プロジェクトは、国際学部附属多文化公共圏センターの独自の視点から可能な限り支援のための調査研究と支援のコーディネーションを行い、地域に根差した多文化社会貢献を創出することを目的としている。国際学部附属多文化公共圏センター(CMPS)は、外国人や社会的弱者と一緒に生きることでできる多文化共生社会を目指しており、本プロジェクトを実施することは本センターの活動目的を果たすことになる。(プロジェクトのブログ: <http://sicpmf.blog55.fc2.com/>)

### 国際開発学会「原発震災から再考する開発・発展のあり方」研究部会

本研究部会は、3.11東日本大震災における原子力発電所の事故が人びとの日常生活に与える影響やその背景にある構造に関して研究をすすめる。日本ひいては途上国の開発・発展、そして開発協力・国際協力のあり方について考察することを目的として2011年に発足し、以下の3つの視角から研究を進めている。第一に、原発事故によってもっとも影響を受けやすい胎児・乳幼児・児童を含む若年世代の家族を当事者として焦点を当てた研究。第二に、上記当事者に影響を与える状況、国、地方自治体、国際機関の政策とNGOや市民団体の関係を分析・検証し、首都圏を中心として経済的な発展を追求してきた日本社会における開発・発展のあり方を批判的に再検討し、当事者にとってもっとも望ましい環境とは何かを考える。第三に、上記の当事者と構造を視野に入れ、日本並びに途上国を含めて開発・発展のあり方を考察する。その上で、発展途上国の脆弱な人々が、原発やその他の人工的な惨事から身を守るための開発並びに国際協力を考える。